

調査研究部報告書情報シート

記入年月日:2017年5月31日

情報No.	K-17-1	情報区分	プラ循環協研究報告	ファイリング場所	プラ循環協書棚
-------	--------	------	-----------	----------	---------

題名 報告書名	プラスチック製食品容器包装に関するLCA調査研究報告書(Ⅱ)				
報告年月	2017年5月	ページ数	193	著者・出版元	プラ循環協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査研究内容	<p>■主旨 プラスチック製食品容器被包装物の品質維持効果測定による環境負荷削減効果に係る定量的解析</p> <p>■内容 「プラスチック製食品容器包装評価委員会」において、プラスチック製食品容器包装の利用が生鮮食品の品質劣化による消費不可食部発生(食品ロス)を抑制し環境負荷削減に寄与するかの調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 対象:エダマメ、ホウレンソウ (鮮度が商品価値となるが、その維持が難しい生鮮食品) ▶ 機能単位(同一便益):消費者が食する品質の青果物1販売単位の提供 ▶ 試験概要:国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門(茨城県つくば市)において、プラスチック製食品容器被包装物(生鮮食品)の品質維持効果評価実験を行った(加工流通実験室、流通実験棟)。
調査研究結果	<p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 適切に利用されたプラスチック製食品容器包装(MA包装、OPPフィルム包装)は、エダマメ、ホウレンソウいづれについても、良好な品質維持効果を示した(良好順 ⇒ MA包装 > OPPフィルム包装 > フィルム無包装《ネット入り、結束テープ巻》)。また、フィルム無包装と比較し良好な環境負荷削減効果を示した。 ▶ 適切なプラスチック製食品容器包装の使用は、①中身食品に対して品質維持効果を示す、②中身食品の消費不可食部(食品ロス)低減に寄与する、③製品トータル(中身食品+プラ容器包装)の環境負荷削減に貢献することが確認された。 ▶ 世界的にも国内的にも、食品ロス削減取組みへの関心が高まっている中、食品ロスの削減とともに、環境負荷削減に貢献する、資源をより持続可能な形で使用する循環経済型のプラ製食品容器包装の活用が期待される。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 本報告は、昨年行ったモモおよびイチゴに係る「プラスチック製食品容器包装に関するLCA調査研究報告書」に続くもので、主役の食品と脇役のプラ容器包装につき、製品トータル(中身食品+容器包装)ライフサイクルで環境負荷削減効果を解析している。 ▶ 食品が保護されなかった時に発生する食品ロスは、栽培時点からの無駄なGHG排出及びエネルギー消費となる。 ▶ 食品生産にかかる負荷は、プラスチック容器包装製造にかかる負荷よりも大きい場合が多い。 ▶ 主役である食品のロスが抑制されれば、その分環境負荷が軽減されることになる。